

## 「1 学期終業式を終えて」まとめ

1 学期終業式の後、生徒は短い時間で「終業式を終えて」を記入しました。

この取組は、聞いた話を要約したり自分の考えを組み入れた文章を短い時間でまとめたりすることを通じ、思考力・表現力等の向上を目指すものです。

内容は、

「1 今日の校長先生の話の要点は、どのようなことでしたか。箇条書きで書きましょう。」

「2 上記の内容をもとに、自分が感じたり考えたりしたことなどを、文章で書きましょう。」

の2つです。各学年から何名かの内容を紹介します。

---

### 1年 R.K.

- 1・今まであたり前だと思っていたことは、様々な人に協力してもらってできていたことであった  
・自立・貢献は、自分のためだけでなく、周りの人のことも考えてからできること  
・チャレンジすることは勇気のいることだが、自分を変える経験となる
- 2・わたしは、中央中の「自立・貢献」の意味を改めて考え直しました。自立は、自分のことだけでなく周りに心配されないようにできることを増やし、考え行動することだと考え、貢献は、周りにできる事を努力して行っていくことだと思いました。そして、「自立・貢献」だけでなくチャレンジすることの大切さについても感じました。勇気をもって自分を変えていこうと思いました。

### 1年 K.K.

- 1・予定通り授業できたのはあたり前ではなく有がたいこと  
・様々な行事を皆でやるので、中学校らしくなった  
・できるようになったこと 9つ 自分以外のために力を出したこと 体育祭のみ（先輩のため7割、自分のため1割5分） 挑戦 特になし←成長に必要  
・中学校では大人で役立つ力をつけるため、自立・貢献が目標  
・挑戦は人を大きく変えるので、チャレンジしてほしい  
・36日間チャレンジして健康に夏休みを
- 2・まず、あたり前がこの世界を作っているのではなく、イレギュラーも加わってこそその世界なのだと、様々な行事が中止になってしまったことから分かりました。だからこそ、この今という時間を無駄にしない様に、今をしっかりと健康にチャレンジを沢山して過ごすことで、将来を豊かに生きることができんじゃないかと考えました。そのため、しっかり今を生きていこうと思います。

### 1年 M.N.

- 1・あたり前はあたり前ではないありがたみ。  
・だれかを支えられる立場にすることが自立。  
・今できる挑戦。勇気を出して一歩。自分自身を成長
- 2・校長先生は、「勇気を出して一歩して人生が変わる」と言っていました、自分にとって、勇気を出すのってとてもかんたんではない。人生が変わるということは、いい方向にも行くし、悪い方向にも行く。勇気を出すのはとても怖い。でも、勇気を出すことは人生においてとても大切なことだ。自分は「自分自身の成長のため」というこの言葉、とてもいいなと思いました。

### 1年 Y.I.

- 1・できるようになったこと  
・他人のために自分の力を発揮したこと

・挑戦したこと

- 2・私ができるようになったことは、自分で考えて行動することです。しっかりと、考えたことを行動に移すことができました。他の人のために自分の力を発揮することができませんでした。2学期では、他の人のために自分の力を発揮したいと思います。挑戦することは自分自身の成長につながるということが分かりました。

1年 K.H.

- 1・当たり前前の方が当たり前前ができる

- ・多くの人達と知り合い、一緒に生きる
- ・義務教育最後に「自立・貢献」挑戦の力をつける

- 2・今まで当たり前前の方ができなくなって早や2年ぐらいいましたが、今年はいきたいのことが元通りになっていく年になってきて、私は1年生ですがうけついできたもの大切さ、そのことを大切にしつつ、義務教育というありがたい期間のうちに自立・貢献をしていきつつ、様々なものに挑戦して、多くの人と関わっていきたい。

1年 Y.K.

- 1・できるようになったこと

- ・誰かのために力を発揮したこと
- ・挑戦したこと

- 2・私は、中学生になってから皆と協力し、体育祭を成功させることができました。しかし、自分以外の誰かのため、ということはありませんかと思えます。だからこれからは、自分以外の人にも目を向けて生活していくことを心がけたいです。勉強面では、友達と協力し合うことができたため、これからもお互いに助け合いたいです。また持久走では、自分のペースを上げることに挑戦し、2回目は1回目より10秒ほど記録を上げることができました。このような経験から、挑戦は大切なものだと感じました。

1年 R.Y.

- 1・4月～今日まで、挑戦したことは？

- ・自分以外の人に貢献しましたか？

- 2・やはり自分は、できている所とできていない所があるな、ということを考えました。特に部活や苦手の教科では、自分のことでせいいっぱいになってしまった。それ以上に、挑戦したり貢献もできていないなとよく考えました。特に私は苦手な英語の勉強で、自分から進んで毎日勉強を継続させるのはとてもきびしかったです。そこで、校長先生のお話を聞き、やはり何ごとにも挑戦は大事で、自分以外にも気づかい貢献すると、やはり自分ももっとのびるのでは、と考えました。

1年 M.A.

- 1・学校でできるようになったことはいくつあるか、何があるか。

- ・学校でだれかのため、何かのために力をどれくらい発揮できたか。
- ・4月からチャレンジしたことは？

- 2・小学生とは全く違う生活についていこうとする自分がいて、生活リズムを合わせようとするほど部活や勉強をがんばったり、新しいことにチャレンジすることができていたということに、話を聞いて気づかされました。知識として知ることと体験することは、えられるものが全く違って、体験するには私はチャレンジが必要だと思えます。2学期は、校長先生が話してくれたことを時々思い出して、チャレンジ精神を育てていきたいです。

1年 S.S.

1・できるようになったこと

- ・中学生になり、だれかのために力を発揮したりしたこと
- ・中学生になって、挑戦、チャレンジしたこと

2・何事にもおそれずに、これからたくさんのチャレンジをしていくことが増えていくと思うので、チャンスを逃さずにしっかりと考えて、勇気をもってチャレンジしていくことが重要だと思った。これからの将来、大人になっていくにつれて、支えられる立場ではなく支える立場になって、困っている人を進んで助け、良い大人に成長できるようになりたいです。これからも、できるようになることを増やしていき、親離れをしても自分で生活できるようにしたいです。

2年 K.S.

1・これまでできたこと

- ・自分の力を発揮したこと
- ・挑戦したこと

2・校長先生の話聞いて、3つの質問について考えてみました。1つ目の、これまでにできたこと、私は努力するようになりました。1年生のときは何となく探り探りでやってきましたが、努力がむくわれて良い結果が出たとき、やはり嬉しさと達成感がありました。大変だった努力もありましたが、全て自分の力になったことが嬉しかったです。そして、自分の力を発揮したことは、人助けです。困っていたり助けを求めている人がいたら、率先して助けることが自分の良い力だと思いました。最後、挑戦したことは、合唱祭実行委員への挑戦です。これも一つ目の質問の答えにもつながりますが、合唱祭実行委員にはたくさん大変なことがあるかと思いますが、これも努力したらとても良い合唱祭になるかと思います。これからも、どんなことも恐れずに挑戦していきたいです。

2年 S.W.

1・当たり前でできていたことは当たり前ではなかったということ

・自立・貢献

・「知識」と「体験・経験」には大きな差がある。何かに挑戦するときは、勇気をもって一步踏み出す

2・校長先生の話聞き、この1学期間、私達はとても恵まれた環境で過ごしていたんだなと思いました。体育祭を始めとした学校行事も誰かの「貢献」によって成り立ち、それは当たり前の事ではないと改めて感じました。また、この先、たくさんの「選択」をする場面も増えると思います。そんな時は怖がらずに一步踏み出していこうと思い、それが「自立」にもつながっていくと思いました。以上のことから、今ある当たり前の環境に感謝し、何事にも一生懸命がんばりたいと思いました。

2年 R.H.

1・自分ができるようになったこと（自立）

・自分自身以外を助けたか？（支え合いが大切）（貢献）

・挑戦したこと（チャレンジ）→成長につながる（今できる、近い将来、一步踏み出してチャレンジしてほしい）経験、成長できるようにしてほしい

2・私は、校長先生の話聞いて、自分は自立することを頑張ろうとしすぎて、貢献ができていないと感じました。学級委員を務めることでも、貢献は大切なことだと思います。また、挑戦するのをためらって機会を失ってしまったことがたくさんあったことも思い出しました。私はこれから、今でている「当たり前」の生活に感謝しながら、何事にも怖がらずに挑戦をし、自立、貢献を両立できるようになりたいです。そして2学期では、もっとまわりが見えるように頑張りたいと思います。

2年 R.N.

1・自立

・貢献 経験 挑戦

2・僕は、これから進路を決めて何かの目標に向かって自立しなければならないと分かりました。3年生からは受験があって高校に近づいていくので頑張りたいです。また、実際に行ったり経験することで知識とは違う新たな考えが生まれるので、挑戦することは大切だと分かりました。挑戦すれば新たな自分への一歩、そして自信が出てくるので、何事にも挑戦を僕は頑張りたいです。

2年 Y.M.

2・私は、校長先生が言っていた「次は人を支えられるような人に」という言葉が心に残りました。今まで、家族や学校の先生、友だちから元気をもらって色々なことを乗り越えてきたけれど、これからは、支えてきてくれた人たちへ恩返しをしていきたいです。また、この広い世界の中で様々なことを挑戦し、沢山失敗をして色々なことを学んでいきたいです。

2年 Y.H.

1・あたり前のことをあたり前にできることは、本当にありがたいことである

・私たちは支えられているだけでなく、誰かを支える立場にならなくてはいけないこと

・勇気をもって様々なことに挑戦してほしい

2・学校の行事などを含め、私たちが毎日学校に行けて、おいしいごはんを食べられて元気に生活できることはあたり前じゃないし、その裏で色々な人の支えがあってこそ成り立っているから、そんな環境に感謝して生活しようと思った。また、あと2年もすれば高校生になり、大人になって日本を支えていく立場へとなっていくので、今から「支える」ということができるように、手伝いなどをもっと積極的に行いたいと思った。そして、これから待ち受ける受験を含め、これから自分で選択する機会が増えると思うので、そういったときに様々なことに挑戦し、色々な経験を積んで豊かな人生にしたいと思う。

わかたけ A.O.

1・4月～7月までの間にできるようになったこと

・誰かのために何かをしてあげられたか

・4月から挑戦したこと

2・4月～7月までの間に出来るようになったことは、一つあります。それは、学校に笑顔で登校できるようになったことです。私はわかたけ学級に4月から入ってきたのですが、「わかたけ学級に入る」というのは、私の冷めた学校生活を唯一あたためてくれたカギです。1年前までは、本当の笑顔で学校に登校することは困難でした。でも、わかたけに入ってからとても楽しい学校生活が始まって、学校に笑顔で登校できるようになりました。

3年 M.I.

1・1学期の間に学校でできるようになったこと（自立）

・誰かのために自分の力を発揮したこと（貢献）

・1学期の間に挑戦したこと（成長）

卒業式まで272日

・社会の中でだれかを支えていけないといけない 将来のことを考える

・人と人が関わり合って生きていく

・知識として知っていることと、経験したことは違う

2・気持ちの切り替え、コントロールが自分でできるようになり、自分のことだけでなく周りのことも、

以前より見られるようになった。時々抑えられなくなるけど、“逃げる”ことは必要なときだけにしようと思われた。その判断も自分でできるようになった。社会の中で生きていくためには、人と関わることが必ずある。そこで、自分のことしか頭にないような行動をするのではなく、周りへの影響も考えた行動をできるようにする必要がある。

3年 T.K.

- 1・あたり前ではないことをあたり前にやるのが大切
  - ・多くの人となしとげる喜び、できるようになったことの数、誰かのために自分の力を発揮したこと→自分だけではない（貢献）、自分が挑戦したこと→勇気を出してほしい
  - ・誰かを支えられるようにする（自立）
- 2・自分は3年生になって、一つだけできるようになった。それは、人の心を打つことだ。私は剣道部で、顧問の先生から人の心を打てと言われていた。人の心を打つとは、人の心を変えろということだ。これは、剣道以外でも使うときがある。私は、剣道を通して良い方で人を変えられるようにしたいと思った。また、剣道を通して、自分一人では何もできないことが分かった。自分を支えてくれる人のおかげで今まで剣道ができたと思う。なので、その人たちのために、今後も剣道もそれ以外もがんばっていきたい。勉強でも多くのことをしてきた。だが、今のままでは目標にはほど遠い。なので勉強ももっとやって、目標に到達できるようにしたい。

3年 S.T.

- 1・挑戦をして大きな一歩を踏み出す
  - ・自立・貢献 支えられる人から支える人へ
  - ・当たり前でできることを当たり前でやるのはありがたいこと
- 2・体育祭などの行事が昨年とは違い、できることが多くなり、今まで当たり前だと思ってやっていたことが当たり前でできなくなってから、どれだけありがたいことかを、改めて話を聞いて実感した。また、自立・貢献で、支えられる人から支える人になるという話では、自分は体育祭を運営している上でそうなれたと思いました。1・2年生では支えられていたけど、支える側になって自立した行動が求められ、自分がより成長できました。そして、学校にも貢献できたと感じ、嬉しかったです。最後の、挑戦をすることについては、今まで挑戦しようとしてもどこか、“自分ができるはずがない”“どうせ無理”と思うことがありました。でも、話を聞いて一歩踏み出すだけで変わるんだと思いました。何事も全て、一歩踏み出さないといけないと思えました。なので、これから自分が何かに挑戦するときは、ためらわずにいきたいです。

3年 K.M.

- 1・人は、人と人との関わりで成長していく
  - ・何事にも挑戦して、自分の成長を見つける
  - ・夏休みは3年生にとって、進路を考える大切な期間
- 2・校長先生の話聞いて、1つ目の人は人と人との関わりで成長していくということが、自分によく響きました。そこで私は、自分1人では成長できる範囲に限られてくると考えました。そのため、友達と競い合って自分を高められるようにしたいです。2つ目は、この夏休みをどう過ごすかです。今年もう受験生の夏休みです。そこで、今年の夏休みは3年生にとって進路を考える大事な期間だということに気づかされました。そのため、この夏休みでは何事にも挑戦して学習に力を入れ、自分で「成長した」と思えるような生活を送っていきたくです。

3年 Y.S.

- 1・勇気をもって挑戦することの大切さ→成長につながる

・自分以外の人・このためにつくすこと

2・勇気をもって挑戦することで、自分自身の成長につながると分かりました。「勇気は一瞬、後悔は一生」とあるように、後悔をしないよう、いろいろなことに挑戦していきたいと思いました。

3年 K.M.

1・あたり前のことがあたりまえにできることが大切

- ・社会を自分で支える、これが自立 貢献の力を身につける
- ・勇気を持って挑戦する

2・自分はまだ自立ができていないなと思いました。なので、この夏から他人に頼るのではなく、自分の力で解決させたいなと思います。次に、勇気をもって挑戦することについて、自分ではできないことから逃げてしまうことがあります。ですが、大人になってからは、いやなことからも逃げられないというのが現実です。なので、失敗しても笑っていられる子どものうちに、いろいろ挑戦したいと思いました。

3年 R.S.

1・68日間 学校は予定通り=あたりまえではない（コロナにより）

- ・ようやく中学校らしい→多くの人のおかげであたりまえのことができる=感謝
- ・社会のために力をつけてほしい 自立・貢献

2・行事など学校としては予定通りだが、このことは多くの人々の支えで行事などあたりまえのことができると改めて感謝を感じました。これからは、行事など中学校としてあたりまえのことは、あたりまえだとは思わず感謝をしながらいきたいと思っています。そして、中学校の自立・貢献では、人と交わり、自分自身の力になっていくと学びました。今日まで挑戦やチャレンジしてきたことは大きな成長につながっていき、不安はあるが一步踏み出してみれば自分が知らない世界を知れると学び、私は一步踏み出すことを不安に思っていたが、勇気をもって踏み出してみたいと思いました。

3年 Y.O.

1・できることが増えることによって社会の支えとなれる

- ・人はいつでもお互いが貢献し合うことで生活できている
- ・経験することは知るだけとは大きく違い、一步踏み出すことで思いもよらない飛躍ができる

2・自分のできることが増えることによって社会を支える力になれ、人々の生活を支える貢献としてお互いの生活を成り立たせている。また、勇気をもってできることを増やそうというチャレンジで、人は思いもよらない飛躍をすることができる。

---

・今回の終業式は高温による熱中症予防のため、動画配信と放送による教室での式となりました。私の話の内容は、学校の合い言葉である「自立・貢献」と「挑戦することの意義」についての内容を軸に、それなりの長さのあるものとししました。生徒が取り上げた内容では、前段に話した『『当たり前』のことができた1学期』について触れたものも多くありました。

・同じ話を同じときに聞いていても、受け取り方や印象に残った内容は皆異なります。教育の面白さ、また、難しさを感じるところでもあります。

・この取組には「正解」はありません。話の要点を捉え、聞いた話について自分の考えを含めて短い時間で書くことを求めるものです。中には、話者である私自身がハッとさせられる新鮮なことも見られ、そのようなときにはとても嬉しく感じます。

：越谷市立中央中学校 校長 石山 秀樹